

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	一階
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&amp;SCD=320</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部		
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1		
訪問調査日	平成22年12月20日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して「何も出来ない、何も分からない人」と考えるのではなく一人一人を尊重し、出来ること、出番・役割などを大切に、日々の関わりの中でその人らしさを少しでも実現できるように、生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切に、ホームの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様、ご家族様、支えて下さっている方々に対し、近くに感じて頂ける存在になれるように、日々一つ一つ少しずつでも前進出来るように、自分達のケアを立ち止り振り返りながら、前を向き、みのりスタッフ一同チームとして、その目標に向かって入居者様と共に生活しています

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所代表でもある管理者は行政や他の介護保険事業者と連携して地域の介護保険サービスの向上を図っており、積極的な研修受講や他施設交流、また自身も研修の講師を務めている。後進指導や育成を必要とする思いは職員の研修参加を促し資格取得意欲を刺激してホーム内に前向きな活気がある。利用者の暮らしにおいては個々の趣味や信仰が継続できるように介護計画を作成し、地域資源の活用・家族の協力・ボランティアの支援を職員が的確にコーディネートして温かさ・豊かさに裏打ちされた介護が行われている。「自立に向けて支援している、行事を通して本人の生きる意欲へ働き掛けている」との家族評は良く云い得ている。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者や職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー) です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最良の生活を収穫する』という理念の下、出来る事はして頂き、出来ない事はサポートし、「本当の家族」に近づける様な支援を目指しています	理念について「灯台のような役割」というわかりやすい説明で職員にホームの方針を浸透させており、人生の収穫の時期をよりその人らしい生活で過ごせるよう取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までの、納涼祭への近隣のお招きに加え、今春より隣組に加入し、ソフトボール大会、葬儀への参加等を通じ、地域の方との交流を図っています	地道な働きかけの継続により自然な形で地域に受け入れられ組の一員としての役割も果たしている。地域行事に参加したりホームの行事に招いたりする中で隣組の人が立ち寄ってくれる良好な関係が築かれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さん達に、介護の専門職として力になれることがあれば呼びかけて頂けるよう、願っています。キャラバンメイトへの参加も検討し、価値のある地域資源社会資源になれるよう努めております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、研修報告、取り組みの報告、課題点などについて話し合い、サービスに活かせるようにしています	定期的な開催により課題も必然的に生まれている。運営推進会議から、市役所でのグループホーム制作品の展示、組への加入、元タカラジェンヌによる歌唱等々が実現し、結果地域への啓蒙や利用者へのサービス向上に資している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議や三島市グループホーム連絡会にて、交流を図ったり、レクレーションで制作した作品を市役所玄関に展示して頂いたりしています	市の担当者の協力を得て、先ず現場を見てもらい、指導の対象から相談し共に考える関係を築いている。市職員と地域のFM局で介護福祉についての対談が放送された。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声かけや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作り、施設長・管理者から、身体拘束についての正しい知識を得ています	拘束の意味の深さを知ることが大事との観点から知識を得る機会の確保に努めており、日々の介護においては評価により意図を確認しながら真の意味で身体拘束をしない介護に取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としていませんが、施設長・管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に施設の理念や考え方を伝え、入居者様やご家族の、不安や疑問点について、時間を掛けて説明を行い、理解や納得に努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問して下さり、入居者様一人一人に不満や悩みを聞いて下さっています。ご家族様には、いつでも要望を伝えて下さるよう、声掛けしたり、意見箱を設置しています	家族の訪問は多く、意見を引き出す対話に努めている。職員手書きの報告書には要望等遠慮なく申し出ていただくことを添えており、家族からは「職員はよく話を聞いてくれる」という声が多い。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーフとの話し合いや意見交換、カンファレンスを開き、方向性や問題点、不安などを話し合う機会を設け、意見や提案を反映させることが出来る様、努めています	統括チーフが職員意見の聞き取りから希望をすくい取って調整し、風通しの良い働きやすい職場作りに努めている。職員がホームの質を認め、更に高いところを目指している姿は見ていて心地よい。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で職員個々の状況について把握に努めています。職場環境、条件整備については少しずつだが進めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OFFJTについて、積極的に実施し、知識や技術の向上、サービスの質の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワークづくり、自施設を見直しサービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、出来る限り自宅に出向き、ご本人とお話させていただき、不安や要望を把握出来る様努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族の不安、要望を把握出来る様努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で最適なサービスを提供出来る様、お話させて頂いています。状況により、他事業所への紹介など、より良いサービスを提供出来る様努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限活かし、出来ることはやって頂き、出来ないことはサポートしながら、本当の家族のように、助け合う関係を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に、利用者様の様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に催事など協力して頂きながら、ご自宅で過ごしたり、馴染みの方が、いつでもみのりに来て頂ける様な支援に努めています	利用者個々の趣味や信仰を継続できるよう支援しており、囲碁の対局や信仰の仲間の訪問がある。趣味の教え子たちが訪問してくれる予定もあり、利用者は楽しみにしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・相性を配慮しレクリエーションの席を決めたり、必要に応じ間を取り持ち、利用者様同士が仲良く生活出来るように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりを必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人ずつ担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご家族の意向、本人の意向を汲み取れるよう、努めています	利用者が個々に合った趣味や経験則からくる知恵等を自主的に生活に取り入れる中で、充実した日々が過ごせるようにと環境づくりの支援が行われている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から、生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション、観察から現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族からの意向を聞き取りと、職員からの聞き取りや、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています	本人、家族等から意向を聞き、さらに職員全員からの意見等をアセスメントで集約して介護計画を作成している。作成後は利用者、家族等の了承を得ており、3ヶ月に1回のモニタリングと、6ヶ月ごとに介護計画の更新を行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・送り事項は全体の送りとして、文書・口頭にて職員間で共有し、介護計画や日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設であることを活かし、型にとられないサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては、その把握に努め、その都度活用しながら、みのりある最良の生活が送れるよう、日々支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や、ご家族様、入居者様の希望を優先しながら、病院を選択し、受診対応しています	利用者本人及び家族等の希望する医療機関の受診を優先している。利用者のかかりつけ医への受診については家族の協力の下に、また、ホームの協力医療機関の受診には職員が付き添い、受診後の結果を家族等に報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員が週に一度健康チェックを行い、医療面での適切な対応が出来る様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入院している病院に、定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願い状況の把握をし、早期退院に繋がる様に努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、早い段階から、ご家族の意向を伺っています。終末期には、往診や訪問看護、ご家族様とご本人様との相談を密にし、対応や方針について、変化に応じて話し合い、最良の対応が出来る様努めています	看取りに関する指針があり、現在まで4名の看取りが行なわれている。終末期には家族等や医師との連携を密にとり、職員や他の利用者の励ましの中で自然体で行なわれている。また、死後においてもカンファレンスを行なって以降の支援につなげる取り組みもされている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応出来る様備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、いろいろなケースを想定し、外階段からの避難、安全な場所への誘導等を行っています。今年度は、訓練に近隣の方も参加下さり、協力をお願いしました	災害対策として、アルファー米や水の備蓄のほか、職員や利用者を対象に年2回の防災訓練が行なわれている。訓練には隣組長が参加してくれたり、ホームからも地域の防災訓練にも参加するなど地域との協力関係も築かれてきている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお人柄やこだわりを理解し、トイレ誘導は、他の方に気付かれぬよう誘導等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています	契約時、個人情報の使用に係る同意書を作成し、個人情報の取り扱いの適正化とプライバシー擁護に関する職員研修が行なわれている。さりげない声掛け誘導等により利用者の誇りやプライバシーを損ねることのないよう十分な配慮がされている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活を送る上で、可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活出来る様、支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康で穏やかに、安心して生活して頂けるよう、体操・レクレーションも日々のスケジュールに取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューを献立に入れ、季節感を感じて頂けるよう心掛けています。準備や片付けは利用者様と一緒にしています	旬に合った食材や菜園で収穫したものを食卓に出すなど、家庭の味を大切にしている。利用者から希望を聞いたり、体調に合わせてお粥、キザミ食、おかわりも自由にしている。また、職員と一緒に食後の片付けなども行なわれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専門シートに記録しています。また嚥下状態に応じ、ミキサー食にするなど、食事形態を変えています。栄養補助飲料も主治医に処方して頂きます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には出来る限り口腔ケアを心がけ、義歯の方については、每晚入れ歯洗浄剤にて清潔を保つよう支援しています。口腔内の変化には、協力医療機関の歯科医師による、相談・診察(往診も可)も行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握し、出来るだけトイレでの排尿が出来る様、支援しています。必要な方には排泄チェックをしたり、訴えが無い方は排泄サイクルを把握に努めお誘いして、失禁を防ぎます	排泄チェックや言動により一人ひとりの排泄パターンを把握し、さりげない声掛けや誘導によりトイレでの排泄や自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足による便秘を防ぐため、三度の食事・二度のおやつの時間に水分補給をしています。毎日体操を行い、身体を動かす働きかけをしています。毎日排便チェックをし、薬使用の検討もします		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっていますが、希望がある方にはそれ以外の日でも入浴できるように配慮しています。	週2回(夏は3回)の入浴となっているが、希望あればそれ以外の日に変更できるようになっている。介護度の重い利用者には職員が2名で対応するなど安全確保に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や週間に合わせ、必要に応じて日々の静養をして頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に、薬局から発行される「お薬の説明」を貼り付け、目的や効能を理解するよう努めています。誤薬の無いような服薬方法を取り、薬の増減・症状の変化も記録し、確認を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食事の片づけ、配膳、洗濯たたみなど、個々の保有能力に応じた役割が、ほぼ決まっています。また曜日毎に『お楽しみ』として、午後のレクレーションに、音楽・製作・ゲーム・習字・運動を行い、楽しんで頂けるようにしています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があった時など、屋外に出かけています。また出来る範囲で戸外のイベントなどへ出かける支援もしています	天気の良い日には散歩のほか外気浴が行なわれている。また、出来る範囲で買い物、馴染みの行きたい場所、お花見、ドライブ等のほか、家族の協力を得て墓参りなどの外出支援もされている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、また入居者様の要望に応じて買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から自由に電話を使えるようになっており、出来ない方には職員がサポートしながら、支援しています。年末には、字を書ける方は自筆で、ご自宅宛てに年賀状を作成します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめにし、常に清潔を保つよう心がけています。また飾りや置物、利用者様手作りのカレンダー等で、季節感を感じられるようにしています	玄関は贅沢なほど広く開放的で自由に出入りができる状態になっている。共用空間は天井が高く開放感があり、壁には利用者の作品が掲示されている。また、利用者の大正琴やピアノなども置かれ、演奏などで心をなごませることに一役買っている。	共用空間の一角にある畳敷で掘り炬燵の部屋を、利用者が利活用しやすいような工夫を望みたい。
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや、畳スペースに自由に腰かける事が出来ます。ベランダには沢山の椅子を設置し、思い思いに過ごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、ご本人様の使い慣れたタンスやベット、鏡台などを持参して頂き、住み慣れた生活が継続出来る様、支援しています	利用者個々の生活感のある居室が形づくられている。整理ダンス、テレビ、仏壇、家族の写真、日用品、趣味の道具など、利用者それぞれの思いのあるものが持ち込まれ、自分の部屋として過ごせる工夫がされている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やペースを考え、家具や手摺りを配置し、安全かつ出来るだけ自立した生活が出来る様工夫しています		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2270600535		
法人名	有限会社 ハーベストライフ		
事業所名	グループホーム みのり	ユニット名	二階
所在地	静岡県三島市南二日町650番地1		
自己評価作成日	平成22年12月1日	評価結果市町村受理日	平成23年3月29日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&amp;SCD=320">http://www.kaigo-kouhyo-shizuoka.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2270600535&amp;SCD=320</a>
----------	---

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	セリオコーポレーション有限会社 福祉第三者評価・調査事業部
所在地	静岡県静岡市清水区迎山町4-1
訪問調査日	平成22年12月20日

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

特段ひとつに力を入れているのではなく、一人一人の入居者様に対して「何も出来ない、何も分からない人」と考えるのではなく一人一人を尊重し、出来ること、出番・役割などを大切に、日々の関わりの中でその人らしさを少しでも実現できるように、生活を大切に考え支援させて頂いております。ご家族様との交流の機会も大切にし、ホームの活動や支援の姿勢などを理解して頂けるように、日々活動しています。入居者様、ご家族様、支えて下さっている方々に対し、近くに感じて頂ける存在になれるように、日ター一つ少しずつでも前進出来るように、自分達のケアを立ち止り振り返りながら、前を向き、みのりスタッフ一同チームとして、その目標に向かって入居者様と共に生活をしています

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) ○	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) ○
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) ○	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) ○
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) ○	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) ○
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) ○	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) ○
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) ○	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う ○
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) ○	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う ○
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28) ○		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『みのりある最良の生活を収穫する』という理念の下、出来る事はして頂き、出来ない事はサポートし、「本当の家族」に近づける様な支援を目指しています	※複数ユニットの外部評価結果は1ユニット目の評価表に記入されています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	昨年度までの、納涼祭への近隣のお招きに加え、今春より隣組に加入し、ソフトボール大会、葬儀への参加等を通じ、地域の方との交流を図っています		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の民生委員さん達に、介護の専門職として力になれることがあれば呼びかけて頂けるよう、願っています。キャラバンメイトへの参加も検討し、価値のある地域資源社会資源になれるよう努めております		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議では、研修報告、取り組みの報告、課題点などについて話し合い、サービスに活かせるようにしています		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議や三島市グループホーム連絡会にて、交流を図ったり、レクリエーションで制作した作品を市役所玄関に展示して頂いたりしています		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員間での声かけや連携で、常に利用者様の動きを見守り、施錠をしない、身体拘束をしない体制を作り、施設長・管理者から、身体拘束についての正しい知識を得ています		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	施設内で虐待防止委員会を設置し、事業所内で防止に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在権利擁護等の制度を必要としていませんが、施設長・管理者は制度について知識を持っており、必要な時は活用できるようになっています		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時等に施設の理念や考え方を伝え、入居者様やご家族の、不安や疑問点について、時間を掛けて説明を行い、理解や納得に努めています		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	介護相談員が市より訪問して下さり、入居者様一人一人に不満や悩みを聞いて下さっています。ご家族様には、いつでも要望を伝えて下さるよう、声掛けしたり、意見箱を設置しています		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	チーフとの話し合いや意見交換、カンファレンスを開き、方向性や問題点、不安などを話し合う機会を設け、意見や提案を反映させることが出来る様、努めています		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	日々の関わりの中で職員個々の状況について把握に努めています。職場環境、条件整備については少しずつだが進めています		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	OJT、OFFJTについて、積極的に実施し、知識や技術の向上、サービスの質の向上に努めています		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他事業所の見学研修などを積極的に実施し、同業者との交流や、ネットワークづくり、自施設を見直しサービスの質の向上に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前の面接にて、出来る限り自宅に出向き、ご本人とお話させていただき、不安や要望を把握出来る様努めています		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前の面接にて、細かい説明や相談に乗らせて頂き、ご家族の不安、要望を把握出来る様努めています		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	その段階で最適なサービスを提供出来る様、お話をさせて頂いています。状況により、他事業所への紹介など、より良いサービスを提供出来る様努めています		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	保有能力を最大限活かし、出来ることはやって頂き、出来ないことはサポートしながら、本当の家族のように、助け合う関係を目指しています		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	行事にはご家族様にも声を掛けさせて頂いたり、毎月請求書と共に、利用者様の様子をお伝えする手紙を添え、ご家族様との繋がりを大切にしています		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族様に催事など協力して頂きながら、ご自宅で過ごしたり、馴染みの方が、いつでもみのりに来て頂ける様な支援に努めています		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様の性格・相性を配慮しレクリエーションの席を決めたり、必要に応じ間を取り持ち、利用者様同士が仲良く生活出来るように支援しています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	こちらからの積極的なアプローチはしませんが、関わりを必要とする利用者様には、フォローや相談の支援に努めています		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者様一人に一人ずつ担当職員をつけて、担当職員を中心に、ご家族の意向、本人の意向を汲み取れるよう、努めています		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	担当職員を中心に、日々の会話・コミュニケーションの中から馴染みの暮らし方を知ったり、ご家族様から、生活歴を伺ったり、前のサービス利用があれば、サマリー等で情報の把握に努めます		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々のコミュニケーション、観察から現状の把握に努めています		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・ご家族からの意向を聞き取りと、職員からの聞き取りや、日々のケアからの気づきを、介護計画に反映させています		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアの実践・結果・気づき等を、個々のケース記録に記入し、変更・送り事項は全体の送りとして、文書・口頭にて職員間で共有し、介護計画や日々のケアに活かしています		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小規模の施設であることを活かし、型にとらわれないサービスの提供、柔軟な対応に努めています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源においては、その把握に努め、その都度活用しながら、みのりある最良の生活が送れるよう、日々支援しています		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	病状や、ご家族様、入居者様の希望を優先しながら、病院を選択し、受診対応しています		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職場内の看護職員が週に一度健康チェックを行い、医療面での適切な対応が出来る様に支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院している病院に、定期的に面会に行き、主治医や看護師に情報提供をお願い状況の把握をし、早期退院に繋がる様、努めています		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期のケアについては、早い段階から、ご家族の意向を伺っています。終末期には、往診や訪問看護、ご家族様とご本人様との相談を密にし、対応や方針について、変化に応じて話し合い、最良の対応が出来る様努めています		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時マニュアルを作成し、職員が適切に対応出来る様備えています		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練を行い、いろいろなケースを想定し、外階段からの避難、安全な場所への誘導等を行っています。今年度は、訓練に近隣の方も参加下さり、協力をお願いしました		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様のお人柄とこだわりを理解し、トイレ誘導は、他の方に気付かれない様誘う等、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしています		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	集団生活を送る上で、可能な限り、利用者様の意向に沿い、自己決定して頂き生活出来る様、支援しています		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	健康で穏やかに、安心して生活して頂けるよう、体操・レクレーションも日々のスケジュールに取り入れながら、余暇の時間は自由に過ごして頂けるよう、支援しています		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者様の希望により訪問美容師の依頼や、お化粧品・毛染めの支援など、希望に沿ったおしゃれが出来るように支援しています		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に合ったメニューを献立に入れ、季節感を感じて頂けるよう心掛けています。準備や片付けは利用者様と一緒にしています		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食後に食事量のチェックをし、状況によっては水分摂取量や食事内容を専門シートに記録しています。また嚥下状態に応じ、ミキサー食にするなど、食事形態を変えています。栄養補助飲料も主治医に処方して頂きます		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後には出来る限り口腔ケアを心がけ、義歯の方については、每晚入れ歯洗浄剤にて清潔を保つよう支援しています。口腔内の変化には、協力医療機関の歯科医師による、相談・診察(往診も可)も行っています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排尿のパターンを把握し、出来るだけトイレでの排尿が出来る様、支援しています。必要な方には排泄チェックをしたり、訴えが無い方は排泄サイクルを把握に努めお誘いして、失禁を防ぎます		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分不足による便秘を防ぐため、三度の食事・二度のおやつ時間に水分補給をしています。毎身体操を行い、身体を動かす働きかけをしています。毎日排便チェックをし、薬使用の検討もします		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴日や時間は決まっていますが、希望がある方にはそれ以外の日でも入浴できるように配慮しています		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の体調や週間に合わせ、必要に応じて日々の静養をして頂いています		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬袋に、薬局から発行される「お薬の説明」を貼り付け、目的や効能を理解するよう努めています。誤薬の無いような服薬方法を取り、薬の増減・症状の変化も記録し、確認を行っています		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	調理や食事の片づけ、配膳、洗濯たたみなど、個々の保有能力に応じた役割が、ほぼ決まっています。また曜日毎に『お楽しみ』として、午後のレクレーションに、音楽・製作・ゲーム・習字・運動を行い、楽しんで頂いています		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日や散歩の要望があった時など、屋外に出かけています。また出来る範囲で戸外のイベントなどへ出かける支援もしています		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	月に数回、また入居者様の要望に応じて買い物に出かけています		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	事務所から自由に電話を使えるようになっており、出来ない方には職員がサポートしながら、支援しています。年末には、字を書ける方は自筆で、ご自宅宛てに年賀状を作成します		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	掃除をまめに行い、常に清潔を保つように心がけています。また飾りや置物、利用者様手作りのカレンダー等で、季節感を感じられるようにしています		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファや、畳スペースに自由に腰かける事が出来ます。ベランダには沢山の椅子を設置し、思い思いに過ごしています		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際、ご本人様の使い慣れたタンスやベット、鏡台などを持参して頂き、住み慣れた生活が継続出来る様、支援しています		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の目線やペースを考え、家具や手摺りを配置し、安全かつ出来るだけ自立した生活出来る様工夫しています		